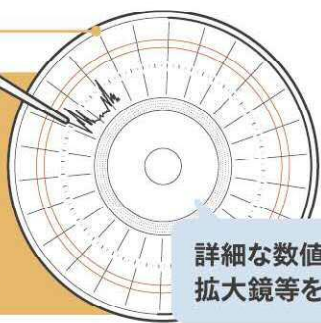


Before

記録用紙(チャート紙)から目視で運行データを判読する必要があった

記録針を
接触させて
連続的に記録

- ・瞬間速度
- ・走行距離
- ・走行時間 など

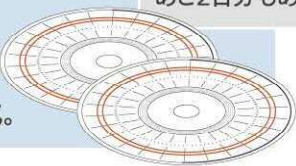


詳細な数値を読み取るために
拡大鏡等を使うことも…

大まかな運行データしか記録できない

チャート紙を
もとに、
運行日報を
手書きで作成。

あと2日分もある…



長距離ドライバーは運行記録が
数日に及び、膨大な事務作業に。

運行日報の作成に手間がかかる

Aさんに全然
つながらない。
業務連絡が
あるのに…



ドライバーへの連絡タイミングが難しい

事例に学ぶ

LOGI

CASE 48 導入

デジタルタコグラフ (運行記録計) & 運行管理システム

初期費用 具体的な導入費用は
システム提供会社「NPsystem」へ
直接お問い合わせください。

導入の決め手:

- ・通信速度が
速かったため



三共運輸株式会社

〒760-0066
高松市福岡町3-32-3
TEL: 087-851-4828
FAX: 087-823-0107
URL: <https://www.logi-sankyo.co.jp>

ホームページ



四国を中心に酸素ボンベなどの高圧ガスをはじめ
システムキッチンやユニットバスなどの住宅機器を
トラックで運び、私たちの暮らしを支えています。

三共運輸では医療施設で使用される酸素ボンベなどの高圧ガス、システムキッチンといった住宅機器の集積・配送をメインで手掛けています。

同社では20年以上前から運搬車両に走行速度やエンジンの回転数などを記録するタコグラフ(運行記録計)を搭載。ドライバーの長時間運転や速度超過による事故などを防ぐため、運行データを活用しています。当初は円盤型の用紙(チャート紙)をスピードメーターにセットして記録するアナログタコグラフを使用。ドライバーは一日の終わりに記録用紙をもとに運行日報を作成していました。「ドライバーの月間運転時間や拘束時間は運行データをもとに算出します。しかし、記録用紙の目盛りは非常に細かくて…何台もの車両の記録用紙を正しく読み解くのは難しく、大まかな数値しか把握できて

デジタルタコグラフ(運行記録計) & 運行管理システム

つぎのよう

- ・危険運転への警告音・表示
- ・アルコールチェッカーやETCなどさまざまな機器と連動させることができる
- ・温度センサーによる庫内温度管理
- ・オプションカメラやキーパッドへの接続 etc

実際に搭載されている
タコグラフがこちら!

運行記録の詳細データが収集可能に

アイドリング
時間走行
時間

正確な運行データを記録!

車両の位置情報がリアルタイムで把握できるように



ドライバーへの業務連絡がスムーズに!

効果を実感!

経営者コメント

今後もさまざまな場面でデジタルツールを活用していきたいと考えています。例えば、心拍や血中酸素濃度などを測定することができるスマートウォッチで熱中症の予防対策につなげられないかと思案中。熱中症は重症化してしまうと後遺症が残る可能性がある危険なもの。社員たちの大切な命を守るためにもデジタルデバイスを有効活用できればと考えています。

三共運輸株式会社
代表取締役

三木 修二 さん

効果1 改善基準告示に準じた運行が可能に

デジタルタコグラフの指示によってドライバーたちが、休憩を取る、運転時間を守るなどの行動を意識することができるようになった。改善基準告示を遵守することへとつながっている。

効果2 事故や違反の件数がほぼ0に

正確な労働時間管理により、余裕を持った運行計画ができるように。また、走行記録の点数化がドライバーの安全運転への意識向上につながり、もともと少なかった事故や違反が現在ほぼ0件となった。

効果3 荷主への適正な運賃交渉の資料にも

物流業界をとりまく「2024年問題」への対策を6年前から実施。デジタルタコグラフから得たデータをもとに、荷主へ荷待ち時間の発生状況を具体的に説明。適正な運賃交渉を行うことができています。

いまでも。そのような中、運送業界では年々、働き方改革などの影響から改善基準告示や法律がどんどんシビアに。これから、社員や会社を守っていくためにも正確な運行データを記録していく必要があると考え、県外輸送や長距離運搬車両を中心にデジタルタコグラフを導入することに決めました」と三木代表取締役。

導入したデジタルタコグラフは以前のツールに比べ、走行速度やエンジン回転数などの運行データが詳細に記録されるように。また、『高速』『積み』『降ろし』のボタンを使い分けるだけで運行日報と同等の記録が取れ、ドライバーたちの業務負担軽減につながっています。「当社はデジタルタコグラフの正確な運行データの取得によって早期から『物流の2024年問題』に取り組むことができました。その結果、改善基準告示をほぼクリア。さらには、もともと少なかった事故や違反の件数を0に近づけることができています。運送業としての不安が大幅に減り、安心して『います』と三木代表取締役は語りました。

